

## 神前おでかけサポート事業

神前見守りの会

補助金：400,000円

### 【地域課題】

令和6年10月、神前地域の80歳以上の高齢者を対象に日常の外出に関するアンケートを実施。その結果、回答者211名中82名（39%）が買い物や通院などの移動に何らかの困りごとを抱えていることが分かった。そこで、住民参画の移動支援サービスを立ち上げ、これまでより安心して暮らせる地域となるようお助け活動を展開したい。

### 【実施内容】

- ◆日時 令和7年8月7日（木曜日）の事業開始から令和8年2月26日（木曜日）までの7か月間の期間、毎月2回（第1・第4木曜日）13時から15時までの13回実施。ただし、令和8年1月1日（木曜日）は除く。
- ◆場所 旧神前小学校を起点に、設定した乗車場所と近隣スーパーの間を車両で往復。
  - ・第1木曜日：ザ・ビッグ寒川店
  - ・第4木曜日：マルナカ三木店
- ◆利用者数等
  - ・当該サービスへの登録者 52名
  - ・利用者数 運行1回あたり約13名、のべ174名

### 【事業の効果】

- ◆利用者の声
  - ・生鮮食品は特に現物を見て選べて楽しい。
  - ・顔見知りと会えて良かった。
  - ・乗合であるから人と話もできる。
- ◆満足度に関しては、利用者の声から概ね、肯定的に受け止められ、買い物での困り感が少なからず解消している。この事業が地域の孤立防止や将来の安心材料につながりつつある。



## 被災や遭難時にも役立つ各種の通信体験

さぬき市非常通信協力会

補助金：174,000円

### 【地域課題、目的】

- ・被災、遭難時に、要救助者は早く救助者に発見してもらうための通信手段を知っておく必要がある。
- ・造田地区福祉まつりの中で、各種通信手段の体験をしてもらい、被災、遭難時に役立つよう啓発活動を行いたい。



### 【実施内容】

- ◆日時 10月19日(日曜日)
- ◆会場 造田ふれあいプラザ
- ◆いろいろな通信体験
  - ・トランシーバーによる通信
  - ・パソコンによるモールス通信
  - ・懐中電灯によるモールス通信
  - ・笛によるモールス通信
- ◆アマチュア無線の通信傍受体験

### 【工夫した点】

- ・事前に造田小学校にパンフレットを配布
- ・パンフレット、体験者用通信体験メモ用紙、アンケート用紙にはルビ打ちし、小学校低学年でも分かるようにした。

### 【反省点】

- ・子どもだけでなく、大人にも体験対象にして行う必要あり。

### 【参加者からの意見】

- ・色んな体験ができて楽しかった。
- ・災害に役立つから、勉強してまたやってみたい。



## 第7回 山のうまいもん祭り

結願の里多和の会

補助金：400,000円

### 【地域課題、目的】

- ・新型コロナウイルス感染症の影響により低下した地域のにぎわいは、収束後も十分に回復しておらず、地域活性化に向けた取組の推進が必要な状況にある。
- ・山のうまいもんまつりの開催により市内外からの来訪を促し、コロナ禍により失われた地域のにぎわいの回復と、元気な地域として活性化を図りたい。



### 【実施内容】

- ◆日時 11月16日(日曜日)
- ◆会場 さぬき市地域活性化施設 結願の里 (旧多和小学校)
- ◆内容
  - ・天体望遠鏡の展示、利用体験、望遠鏡の工作教室等
  - ・竹細工教室
  - ・リース、小物作り体験教室 など
- ◆来場者数 約1,500人

### 【事業の効果】

- ・地区民のスタッフとしての協力が例年以上の120名で地域の連帯感、地域の輪が広がった。若い人も積極的に参加し、イベントを大いに盛り上げ、活性化に寄与してくれた。

### 【工夫した点】

- ・前回の反省を踏まえ、会場内がよく分かるように配置図を作成、各所に掲示した。
- ・今まで以上に、マイクでのタイムリーな告知も行った。

### 【反省点】

- ・教室内、体育館内の催し物が分かりにくかったので、次回改善を行う。
- ・駐車スペースが少なく、お客様が帰ってしまう状況が例年以上に発生し、ご迷惑をかけた。
- ・多くの来場者から来年も来たいと言われた。また、多くの地元民や若いスタッフから来年もイベントをやってほしいとの要望があった。



おもてなし花いっぱい運動事業 partⅢ

クローバの会

補助金：436,000円

【地域課題、目的】

- ・平成25年から、JR神前駅周面とさぬき市民病院、寒川農村環境改善センター、21世紀館さんがわ周辺に花のプランターを設置し、利用者にひと時の安らぎを与えられるよう花いっぱい運動を推進しているところである。
- ・プランター、水遣り散水ホース器具等の経年劣化が目立ってきたことに加えて、新たに建設された細川林国記念館の周辺においても「花いっぱい」のおもてなしを実施したいことから、植栽、育成管理に必要な物品の更新やプランター追加購入などの必要がある。



【実施内容】

◆花の植替え

春:6月13日(水曜日)

パンジーからマリーゴールドの植替え

秋:11月7日(金曜日)

マリーゴールドからパンジーへの植替え

◆花の水遣り

会員の当番制により年間を通じて実施

◆参加者(春:総数108名、秋:総数105名)

- ・寒川小学校 児童、教諭
- ・寒川高等学校 生徒、教諭
- ・石田高等学校 生徒、教諭
- ・市民病院 職員
- ・当会会員等

【事業の効果】

会員は事前準備を行い、植替え当日は、会員のほか多くの児童、高校生が参加し、自分たちも地域のボランティア活動に参加できたという喜びを味わってもらうなど、児童等にとっての成果は大きいものがあったと感じられた。



始まりは津田の松原「ハマヒルガオの会」

始まりは津田の松原「ハマヒルガオの会」

補助金：450,000円

【地域課題、目的】

津田の松原には、さぬき市合併前、町花「ハマヒルガオ」が群生していた。現在も植生は見られるものの大きく減少している、自然、住民の変化、外来種における影響などが考えられる。津田小学校の児童、地域住民がともに「ハマヒルガオ」の観察等を通して地域交流を図りたい。また、ハマヒルガオが津田の松原の初夏の風物詩として市民に親しまれ、さらには市の観光資源につなげたい。



【実施内容】

- ・会場：津田の松原 ふるさと海岸
- ・会員による観察、記録撮影実施
- ・津田小学校4年生約30人に説明及び観察実施
- ・市内の高校へSNS発信等の協力を依頼
- ・パンフレット、SNS、ホームページ作成



【事業の効果】

- ・会員8名によるハマヒルガオの育苗をそれぞれ試みたが、発芽できたのは内3名となった。
- ・7月3日の津田小学校4年生による種採取を実施したことで、生徒によるハマヒルガオへの意識が変わったことや、大事にしていきたいなどの感想があった。また、毎年为学校行事として実施し、学習を継続いただけることとなった。
- ・当会の活動を広めるために、会員によるSNS/HPのアップデートは基本だが、次世代の若者、学生につないでいき、成果として観光資源にしている準備は整った。
- ・8月に瀬戸内国際芸術祭が開催され、作品観覧に会場した方や、取材関係の方にも当会の趣旨やハマヒルガオの生育の経過や現状を説明し理解を深めた。

